



講師の田中さんから修了証が授与された。



↑タオルでペアワーク。体幹を鍛える遊びは家庭でも取り入れられそう。



→ 遊びの始まりと終わりには相手の目を見て挨拶。

「おはようございます！」
大きな声での挨拶と共に体育館にやって来た児童たち。台北日本人学校初の試みという、マナーキッズ体験遊び教室が開かれた。姿勢を正して挨拶したら、タオルを使って背伸びをしたり、体をねじったり。これは体幹を鍛える体操だ。次に友達とペアになって引っ張りっこに押し車。昔はこんな遊びもしていたのだが、現代っ子はゲームやパソコン、スマホでの遊びが主流なのかもしれない。公益社団法人マナーキッズ・プロジェクトは、スポーツや文化活動を通して、現代の若者たちのマナー・ルールの向上を目指して設立された。「体・徳・知」バランスの取れた人材育成に寄与したいと奮闘する。理事長の田

中さんは「体の核を鍛えれば、きれいな姿勢を保つことができ持ちもしやんとする」と話す。
元気がいっぱい体を動かした後は修了証授与式。体育館に背筋を正した児童たちの大きな返事が響いた。(写真・文・林綾子)

取材リポート

小学部1〜6年生

マナーキッズ体験遊び教室

講師：公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト
理事長 田中日出男さん

台北日本人学校便り 台湾で 芽吹く若葉たち

協力：台北日本人学校

↓カラフルなお手玉を選ぶのも楽しい。



森さんがこま回しやお手玉を披露すると、児童たちは「すごい！」と思わず声を漏らし手を叩く。次は児童たちの番だ。お手玉をか自ら考え、実際に手足を動かしてみる。頭上でキャッチしたり、足の下をくぐらせた

こま・けん玉・あやとり・竹馬・折り紙……。昔から今も続く楽しい遊びはなんですか？そう問われると、児童からはさまざまなお手玉が挙がった。1〜2年生の生活科特別授業での「コマだ。伝承あそび愛好家の森恵子さんを迎えて、古くから続く懐かしい遊びに親しんだ。」



↑「手のひらを太陽に」の音楽に合わせてお手玉遊び。

お手玉は「狭い場所でも遊べる、安上がり、達成できるとうれし、音楽に合わせても楽しい、だからいい」と森さん。そんな手軽に楽しめる遊びだからこそ、今も変わらず人々を笑顔にするのだろう。どの顔もニコニコ顔。楽しさいっぱい、笑い声が教室中に響いていた。(写真・文・林綾子)



三つのお手玉を自在に操る森さんを、食い入るように見つめる児童。

取材リポート

小学部1〜2年生

生活科「昔からの遊び」

講師：伝承あそび愛好家 森恵子さん